「喜悦の盈満」

第一講「きよめと力」

はじめに―本書が目ざしているもの

「クリスチャンの心霊的経験」としての「全ききよめ」は必要不可欠

・新生によってはじめられた聖工（みわざ）の完成のために。

・信仰者の生涯と奉仕が継続して発展するために。

健全な理解と継続的な成長のために明確でなければならないこと

・消極面―真実な必要感。

・積極面―神さまとの取引がはっきりしていること。

さらに加えて、その後における信仰者の心構えと霊的生涯に関する正確な教示は不可欠。

→この点が、従来の「きよめ」運動などで大きく欠けていた。

第一講 「きよめと力」

はじめに

一、キリスト者と任務ー力の欠如

二、聖霊の力

三、キリストの証人

はじめに

キリスト教の真髄は、「きよめ」にある。

・「常に喜び、絶えず祈り、すべての感謝する」生涯
・「圧倒的な勝利者」である生涯
がほんとうにあり得ることを証しする信仰者、証人となるために。

・頭だけの宗教
・儀式だけの宗教
・慈善的な働きだけの社会的な宗教
でないために。

一、 キリスト者と任務―力の欠如

クリスチャンの任務は、キリストの証人となるということ。

召し出すからには目的、任務がある。それはキリストの証人となるということ。
このことを正しく自覚すると、そのために自分が全く無能であることがわかる。

ここに向き合わないことが、きよめを真剣に求めない人が多い理由。

リアリティー（現実・事実）と取り組むことなく、アイディアリスト（理想主義者）にとどまっている。

（新生の経験が不確かな場合も、きよめのことは理解できない。）

二、 聖霊と力

クリスチャンが任務を果たすために必要なのは「聖霊の力」。

世界にはたくさんの力があるが、これ以外の力では任務は果たせない。

しかしこの力はクリスチャンが任務を果たすための力なので、
これ以外のことを目的にして求めても、与えられない。

聖霊の力が与えられると

①消極的に一持って生まれた内的な罪の力から解放される。

②積極的に一奉仕や仕事を力強く、より自由にすることができる。

③継続的に一信仰や宗教の世界を全的、立体的にとらえられるようになる。

→聖書の真理が思想ではなく、心の納得となる。

三、 キリストの証人

召し出されたクリスチャンの職分である「キリストの証人」とは

① 直接それを見て見証することができる人。
② まずエルサレム（自分のいる場所）で証人となる人。
③ キリストを証しする、すべての栄光を自分ではなくキリストに帰する証人。

受けるための条件

① 知っているいっさいの罪を捨てる
② イエスさまにすべてをささげる
③ 福音の宣教のためにだけ生きる

→ これらのことを心に決めて
主の前に立つなら、与えられる。

まとめ

「きよめ」とは、

クリスチャンがクリスチャンとしての任務（キリストの証人となる）を

果たすために必要な「聖霊の力」を与えてくれるもの。